

研修名 支援を必要とする子どもの保育

平成29年9月27日（水）10：00～12：30

講 演 「保育現場と医療連携による個別支援の充実に向けて」

講 師 舞鶴こども療育センター 四方 あかね 氏



1、講演要旨

1) 療育センターで知らせること

- ・ハードルがあったら飛び越えるだけが方法ではない。
どんな方法を使っても良い（引きずる、折る、避ける等）
絶対にしてはいけないのは、そのハードルを他人の邪魔にすること。
- ・診断名がすべてじゃない
診断名がある→だからと言って、何もかも全て手助けがいるわけじゃない。
診断名がない→でも、助けてほしいことだってある。

2) 障害があるとは

- ・生活しにくい、学習しにくい、遊びにくい等人によって様々。
でもいつもいつも助けてほしいことばかりじゃないし、自分で何とかしたい人だっている。
障害名の理解が重要なのではなく、何がどのように障害になっているのかを見極めることが大切。

3) 合理的配慮について

- ・本人の意思表示が大切。
- ・本人なりのプライドもあり、無理に配慮するのは大きなお世話で、合理的じゃない。
- ・本人からの意思表示があった際、負担が重すぎない範囲で対応すること。
- ・障害のある人と、周りの人が、お互いに過ごしやすくなる方法を考えることが重要。

4) 療育手帳について

- ・3歳ぐらいから持ち始める子が多い。
それまでは持っていても、使うこともあまりない。
持っていても損はない。

- ・他府県は自閉症でも療育手帳を出してくれる。IQが高くても出してもらえる。京都府はIQが高いと、出してもらえない。

5) 発達障害について

- ・認知されるようになったとはいえ、増えすぎている。
個人の特徴・個性とは言い切れなくなってきた。

6) 医療的ケア

- ・経管栄養：チューブを使って胃や腸に栄養剤などを入れること。
- ・吸引：唾液や痰を取り除いて窒息を防ぐこと。
- ・導尿：チューブを使って膀胱からおしっこを出すこと。
- ・酸素療法：呼吸機能が弱った人にチューブやマスクで酸素を吸わせてあげること。

7) 療育センター受診経路、診断

- ・検診や発達クリニックから療育センターにつながる場合が多い。
 - ・親の気づきによる受信は、コミュニケーションの問題が多いのに対し、園の気づきは自閉症スペクトラム障害が多い。
- <自閉症スペクトラム障害は集団の中の方が気づかれやすい。>

2、感想

療育センターの話では、以前から知っていることもあったし、知らないこともあり、とても勉強になりました。親と園の問題意識が違うというのに驚き、園での姿を保護者に伝えていくことが大切だと感じました。家ならではの姿、園での集団生活ならではの姿をしっかりと共有していくこうと思いました。医療的ケアの話は、正直自分にできるのかと不安になるような内容でもありました。今現在園に医療的ケアを必要とする児はいませんが、今後あり得ると考え、また研修にも参加したいと思いました。

(記録 南山城村立南山城保育園 馬場麻実)

